



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: <http://www.ueki.or.jp/>
E-mail: honbu@ueki.or.jp

購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



昭和54年12月7日 第三種郵便物認可

花きの定義に

緑化木も含まれることが明文化

「花きの振興に関する法律」6月20日成立

「花きの振興に関する法律」は、昭和45年に福岡市で開催された第19回日本花き生産者大会で検討をスタートした。時代を経て現在は自民党のフラワー産業議員連盟農林部会(河村建夫会長)を中心に進められ、第186回通常国会に上程され、6月20日参議院本会議において議員立法により全会一致で可決成立した。

本法律では、花き産業と花き文化の振興を図り、花き産業の健全な発展、及び心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的としている(第一条)。

第二条では、「花き」の定義が明確に定められている。「花き」とは観賞の用に供される植物と位置付け、具体的には、切り花・鉢物・花木類・球根類・花壇用苗もの・芝類・地被植物類と定められ、さらに花木類の説明には、ツツジ等庭木に使われる木本性植物

で緑化木を含むとされ、コシナギ栽培植物も鉢物類に包括された。

農林水産省生産局農産部園芸作物課花き・施設園芸振興室は、6月23日13時から農林水産省七階講堂において花き振興セミナーを開催し、第186回通常国会で成立した「花きの振興に関する法律」を説明した。

セミナーは初めに、江藤拓副大臣の挨拶に始まり、議事として花きの現状について、生産局花き産業・施設園芸振興室長・川合豊彦氏が説明し、花き振興に関する法律について衆議院法制局第4部副部長・奥克彦氏が解説し、花き生産者

の参加者が有り、別室にてテレビモニターを設置して対応するほどで、各業界からの花き振興法への関心の高さを示した。

セミナーは初めに、江藤拓副大臣の挨拶に始まり、議事として花きの現状について、生産局花き産業・施設園芸振興室長・川合豊彦氏が説明し、花き振興に関する法律について衆議院法制局第4部副部長・奥克彦氏が解説し、花き生産者の抱負等を述べた。本会からは矢倉副会長が本法律成立に謝意を表し、多様な植物

を扱う本会の概要を説明し、地球環境の改善を含めて、今後積極的に取り組む方向であることを述べた。

休養後、花き関係団体における今後の取り組みとして、参加12団体から今後の抱負等を述べた。本会からは矢倉副会長が本法律成立に謝意を表し、多様な植物

花きの振興に関する法律

平成26年6月20日、第186回通常国会において、議員立法により「花きの振興に関する法律」が成立しました!

目的

第一条 この法律は、花き産業が、農地や農業の担い手の確保を図る上で重要な地位を占めているとともに、その国際競争力の強化が緊要な課題となっていること及び花きに関する伝統と文化が国民の生活に深く浸透し、国民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っていることに鑑み、花き産業及び花きの文化の振興を図るため、農林水産大臣による基本方針の策定について定めるとともに、花きの生産者の経営の安定、花きの加工及び流通の高度化、花きの輸出の促進、公共施設及びまちづくりにおける花きの活用等の措置を講じ、もって花き産業の健全な発展及び心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的とする。

産業と文化の両面からの花きの振興を、法律の目的としています。

定義

ここがポイント!
一般では判断が難しいと言われる「花き」の定義を明記。観賞の用に供される植物はすべて「花き」に含まれます。

第二条 この法律において「花き」とは、観賞の用に供される植物をいう。
2 この法律において「花き産業」とは、花きの生産、流通、販売又は新品種の育成の事業をいう。

「花き」とは、具体的には切り花(ヤシの葉等切り葉、サクラやサカキ等切り枝を含む)、鉢もの(洋ラン類、観葉植物、盆栽等)、花木類(ツツジ等庭木に使われる木本性植物で緑化木を含む)、球根類(食用に供されるものを除く)、花壇用苗もの(パンジー、ペチュニア等)、芝類(造園用等養成されているもの)、地被植物類(ササ、ツタ、ジャノヒゲ等の地面や壁面の被覆に供するもの)のことを言います。

ここがポイント!
緑化木について記載されています。

花きの振興に関する法律 Q & A

ここがポイント!
Q&Aでも、植木に関する記載があります。

Q

この法律には植木や盆栽、切り葉や切り枝も対象となりますか。

A

法第二条において、「花き」とは、観賞の用に供される植物をいう。」と定義されています。ゴウマツやツツジ等の植木や盆栽、観葉植物は、主に観賞用に仕立てられるものであることから、法律の対象となります。また、切り葉や切り枝については、農用地で生産されたもののみならず、林野から採取したものについても、観賞用として出荷される場合は法律の対象となります。

農林水産省ホームページ 花き振興コーナー 花きの振興に関する法律紹介パンフレット
「花きの振興に関する法律のあらまし(平成26年7月)」より抜粋
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/>で全文をご覧ください。

今年、法律、予算共に成立した「花き元年」。東京オリンピックという一大イベントも6年後に控えている。需要拡大の大きなチャンスである。
地域での積極的な働きかけ、関係者一丸となった取り組みで、植木生産・流通業の一層の飛躍が現実となる。



コンテナ農場(100万本生産)

コンテナ農場



オリーブ



カンツバキ赤花と白花

(株)瀬戸内園芸センター

緑は地球を救う

愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187
<http://www.setoen.com/> E-mail: setouchi@setoen.com

主な生産物

クロマツ コニファー類 ヤシ類
カシ類 クスノキ タブノキ
モチノキ ウバメガシ オリーブ
カクレミノ クロガネモチ
サンゴジュ シマトネリコ
マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
レッドロビン オウゴンマサキ
カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
シャリンバイ ツツジ類 トベラ
ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

第4回理事会

本会理事会は6月26日13時から協会・会議室において理事会を開催した。出席者は理事14名と監事1名及び事務局。

議事の経過及び議決の結果は次の通りである。

○27年度通常総会について

平成27年度通常総会は創立45周年記念全国大会の年に当たり、会場は東京・品川プリンスホテルに決定し、次第を基に通常総会、記念講演、全国大会等の時間配分と進行内容を報告・検討し、講演講師候補について推薦4名の事務局案が報告された。

○ポーランド植木協会訪日と懇親会について

10月25日訪日予定のポーランド植木協会一行36名の視察予定の会員園場名報告



○ベルギー植木視察団の訪日と対応について

その後の内容進展はないが、適宜阪上副会長経由で関西ブロックに報告し協力の要請をする。

○図書「植生景観とその管理」の出版について

植生アドバイザー育成講座のテキスト作成に当たり、(一社)東京農業大学出版会との出版契約の締結について審議し、販売金額清算の締切日を具体的日時点で記載することを要請された。発刊は8月末を予定。

○情報検討委員会

生産数量調査は協会事業であるか否か?について、佐久理事から問題点を資料により説明し、調査名の定義として現在の名称は分かりにくいので、生産数量調査を団別生産数量調査に、供給可能量調査を県別生産数量調査としたうえで、生産数量調査は協会事業である事を再確認し、生産数量調査の結果を会員各位に公開するか否か、するのあればその公開方法、公開範囲、公開内容等について違いを明確にして、ブロック、部会にアンケートを送付して意見を聴取し、その結果を踏まえた様子を公開方法にするかを理事会で検討することとした。

○緑育出前授業案件事項

緑育交付金(仮称)の一律2回分10万円事前交付と、一律5万円交付の金額増額について審議し、事務手続きの煩雑さと、5万円超過が想定される場合は予算書の提出等で内容の審議をする等を考慮して現状のままとする。

○コンテナ部会「国交省平成25年度先進的都市環境形成促進事業助成」について

「国交省平成25年度先進的都市環境形成促進事業」

○海外輸出依頼についての対応

協会宛てに2社から要請のある中国向け輸出見積もり依頼については、時節柄慎重に対応する事とした。

○緑のバトン運動

朝日新聞、森林文化協会が推進する緑のバトン運動の説明がされ、東日本震災で復興植樹用として東北で採取した種子から育てた苗木を全国各地で育成して貰う際に枯損してしまい、その苗木育成時のアドバイザーを要請されている旨の説明と報告がされた。詳細実態等を手したうえで、緑育出前授業と絡め、出来る範囲で協力検討して行くこととした。

○中央研修会

中央研修会について討議され、総会と同時開催でなく27年6月から8月にかけて開催予定。テーマはオリビック関連・現地視察、花卉法案関連等で研修・資格委員会検討して行く。

○災害普及樹種見本園の造成について

東京農業大学の濱野先生よりの案件で田中秀穂ブロック長に依頼済み報告。日本列島植木植物園、会員園場等の借用を含め、長期的にブロック等で推進して頂きたい旨の要請済みであることを報告。

○造園施工示方書原稿執筆推進状況

担当の理事等には要請済みで、再度対応協力を依頼した。

○その他

・牛嶋理事より、九州ブロックの夏季研修会に2日間300名程度参加により盛大に行われ事の報告と、支援の御礼があり、若い人の参加者が多かった感想を述べた。

両調査会との懇談会を開催

6月12日14時より協会会議室にて開催され、協会共倉副会長含む供給可能量調査委員会8名、両調査会4名の計12名が参加し、共倉副会長、佐久委員長、両調査会挨拶の後、参加者の自己紹介があり、懇談会を開始した。

○役所、及び施工会社の設計価格の考え方をなす

議題は予め配布された内容を両調査会が返答する形式を取り、限られた時間の中で影響の大きい議題について具体的に討議した。

○設計単価掲載は出来ない

か、との意見に対して、現状では対応出来ないとの回答。

○メーカー希望価格は現在も一部資料にあるが、植木は定価が無い商品と認識しているためメーカー希望価格表記は今後も記載しないとの報告。

○両調査会より調査票の回収協力を要請される。価格を上げるのであれば調査票を出し、協力をして下さい、との意見。

○調査を流通業に絞ってはどうかという意見に対しては、建設物価より生産者の数字は参考比較調査数字として使用している、流通業が多く協力すれば流通価格として記載が出来る可能性があるとの意見。

○調査会から記載は難しいとの回答(確認調査を入る、流通業が多く協力すれば流通価格として記載が出来る可能性があるとの意見。

○調査会より、一枚岩で価格の上昇活動をしていまして、生産価格が上昇するための施策を取っている、との疑問。

○調査表提出社園数、及び提出率を上げる為、植木協会として協力することを報告。

○品薄、欠品の記入が面倒なので、チェックで表記できる調査

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の



○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の

○調査表記入確認で各エリア調査価格は東北仙台市、関東東京都、中部名古屋、関西大阪府、中国広島県、九州福岡県の



植生調査拡大協議会 植生アドバイザー育成講座と 植生管理士認定試験について検討

植生調査拡大協議会は、平成26年7月28日(月)14時から東京農業大学森林総合科学科7号館会議室において拡大協議会を開催した。出席者は中村先生、鈴木先生、福永先生、関岡先生、小室先生のほか、本会からは秋山担当理事、上条委員長、葛西副委員長、菅原、内田、山本、森本、西野、清瀬委員と事務局。

秋山担当理事挨拶の後、上条委員長挨拶の後、議題に入る。

図書「植生景観とその管理(仮題)」出版について協議された。当該図書は受講生のテキストとして活用される。会員および講座修了者向けには、特別価格での優先販売も検討した。

環境省・農林水産省の人材認定等事業「認定事業」登録後、第5回目となる植生管理士認定試験は、一次試験を11月23日(日)、二次試験を12月6日(土)、横浜自然観察の森にて行うことを決定した。また、試験受験者には11月22日(土)、東京農大において事前講習会を開催することも決定した。

お知らせ

「植生管理士認定」試験の実施について

植生調査委員会 委員長 上条祐一郎

植生調査を実施し、そのデータ解析から植生復元計画の策定までを行う植生管理のプロとして、優れた知識と技能を有する指導者を「植生管理士」と認定する試験です。この事業は環境省、農林水産省の登録事業でもあります。

一次試験(学科試験)と二次試験(実技試験)がありますが、植生アドバイザー育成講座の全過程修了者は二次試験が免除されます。

今年も第5回「植生管理士認定」試験を下記のように実施し、受験者を募集しますので奮ってご参加ください。

記

「植生管理士認定試験」試験

1. 一次試験(学科試験)
日 時：平成26年11月23日(日) 10:00~12:00
試験会場：東京農業大学(東京都世田谷区) 費用：10,000円
2. 二次試験(実技試験)
日 時：平成26年12月6日(土) 13:00~17:00
試験会場：横浜自然観察の森(横浜市保土ヶ谷区)
費用：10,000円
3. 締 切 11月14日(金)まで

環境緑化樹木識別検定実施委員会

樹木識別のポイント講習会を開催
東京・日比谷公園にて

日比谷公園・緑と水の市民力レジ(千代田区)2階大教室にて、6月14日(土)13時より25名(うち学生7名参加のもと)「樹木識別のポイント講習会」を開催した。

本講習会は、100種類近くの樹木の実物枝葉について見て触れながら、似ていると間違えやすい樹種とそれの見分け方のコツを、講師の解説、雑学などを聞きながら受講者は、川原田講師と



受講者は枝葉を囲み、実物に触れながら見分け方のコツを習得する



座学のあと、日比谷公園内の樹木全体樹形を観察しながら復習するオプションツアーには、ほぼ全員が参加した

吉澤講師、それぞれが解説する2つのテーブルにわかれ、セッティングされた枝葉を囲み、メタセコイヤとラクウショウ、ヤマモミジとオオモミジなどの似ている間違いやすい樹木の実物枝葉で違いを確認し、積極的に質問をしていた。

座学のあとはオプション講習会として、川原田講師と日比谷公園内を散策しつつ、研修会場で識別した樹木などについて、全体の樹形も確認しながら復習を行った。

2013ミス日本グランプリの植木協会体験
えりかが行く！
樹木識別のポイント講習会



「シヨツツやカマエで生け花。樹木などを取り入れ、おしゃれで心地よい空間を創造する『緑の空間プロデューサー』の道を歩き始めて半年。昼間は汗だくで植物と格闘しつつも、その合間を縫って、ミス日本つながりのレセプション参加、モデルの仕事などもこなします。鮮やかなフラワー模様のワンピースで颯爽と登場し、会場には大輪の花が咲いたようにした。

環境緑化樹木識別検定資格認定委員会
第8回環境緑化樹木識別検定試験

7月5日(土)13時より東京農業大学1号館(東京都世田谷区)で行われ、19名が受験し、内学生が10名と多く、会員は含まれなかった。

受験者は試験方法や終了するまで75分間は退席できない等の注意事項の説明を受け、いったん退席した。答案用紙と枝葉入りフラスコがセッティングされてか

ら、再入場して識別検定試験に臨んだ。試験方法は、自分の机に回ってきた枝葉(切枝)を見て、その樹種名をカタカナ(標準和名)で答案用紙に記入する。大要シンプルで、100樹種を45秒間で、1000樹種を次々と識別して全員無事答案用紙を提出することが出来た。この試験は、全体樹形・

樹幹・枝ぶり等がわからず、枝と葉だけで瞬時に識別する能力、また正確な標準和名を回答する能力が求められる。一般的に目にする樹木ながら満点はいまだ出ていない。みずみずしい枝葉を使った本検定試験は植木協会ならではのものです。過去の1級合格者は枝葉の細かい特徴に関する知識だけでなく、現場での実践経験が豊富な人が多く取得している。樹木に興味ある一般の人



東京農業大学試験会場

先日は「樹木識別のポイント講習会」へ！造園設計・施工・生産の方々に、もっと緑化で扱う樹木について知ってほしい、ということだ。『環境緑化樹木識別検定』が出来、今回は検定の時のように実際に枝葉を見ながらそれぞれの特徴や見分けのポイントについての講習会でした。

しかし、ずらりと並んだ100種類あまりの枝と葉っぱを見て、私からすると、もう全てが同じに見えてしまうという不安なスタート。開

会のご挨拶でお話にあった『全く知らない植物と出会った時、一から手探りで探して行く膨大な時間がかかってしまう。植物を扱う商売をプロとしてやっていく上で、まず樹木を識別できることは必須能力である。』という言葉を一瞬にして痛感しました。

不安の渦に吸い込まれそうになりながらも、講師の先生のお話を聞いてみると、まず似ているものを並べてその違いを挙げており、なんだか間違ひ探しゲームをしているようにでんだん楽しい気持ちに！例えば、クロマツとアカマツ。触ってみるとアカマツの方がちよっと葉が柔らかいのです。このように図鑑に



100種類あまりの枝葉、そのボリュームに圧倒されます

まで、植物の特徴が一番現れるのは葉の形で、葉の形こそが樹木を見分ける際の決め手となるのだらうと思っていた私にとって、この考えの全てを覆される結果となりました！

葉の形が同じ植物でも、枝への付き方、枚数などによって、全く違う樹木になってしまふことがあるのです。ここがまた樹木識別の奥深さであり、難しさなのだと思います。樹形を見ることが出来れば多少識別しやすいのだそうですが、刈り込まれても識別できる力をつけるためには、やはり検定のように枝と葉のみで識別の判断力をつけるのが大切なのだと思います。ヤマモミジやオオモミジなどは、ルーペで鋸歯の先がたくさん山になっているかという点で判断するなど、あまりに細かい世界もあり、正直こんなに覚えられるのかと気が遠くなりました。

しかし、講師の先生の「自分の好きな興味のある植物から楽しく覚えて行くことが大切です。」というお話を聞いて、まずは好きな植物とその仲間を覚えて、その中で樹木識別のコツを掴んで行くのが一番良い方法なのではないかと思いました。

今回の講習会に参加し、植物の奥深さを改めて感じる1日になりました。



講師の先生は似ている樹木を選び、コツを伝授して下さいます



ヤマモミジとオオモミジの鋸歯の違いをルーペで確認



鈴木恵梨佳

2013年度ミス日本グランプリ。東京都高尾生まれ。大学で学んだ植物や土壌に関する知識、ミス日本での経験を基に、緑地空間プロデューサーを目指し、日々奮闘中。ブログ『鈴木恵梨佳のGreenDiary』
<http://erika.0706.hatenablog.com/>





日本列島植木植物園

枝垂れグループ

枝の垂れる樹形は多くの樹木に知られています。特に芯が自然に立ち上がり大木になる品種には、姿が優美で神秘的な独特の雰囲気を感じ出すものが多く、昔から珍重されてきました。
また、芯が立ち上がらない品種は、手をあまりかけなくてもまとまりやすく、狭い場所やあまり大きくしたくないデザインに向いています。
日本人は既成概念にとらわれる傾向がありますが、枝垂れ樹形の良さをもっと多くの方々に知っていただきたいプランツコレクションです。

シダレエンジュ

Sophora japonica 'Pendula'

- * 中国原産で、出世木といわれ珍重されます。
- * 日本では京都・二条城のものが素晴らしいと知られています。

シダレネム

Albizia julibrissin 'Pendula'

- * 世界に誇れる日本原産の枝垂れ品種の一つで、もっと広く利用していただきたい品種です。



文章・画像協力：シダレグループ

ナショナルプランツ コレクション

※世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。



軽井沢千住博美術館・カラーリーフガーデン

軽井沢千住博美術館のカラーリーフガーデンは、日本で最大規模の庭で、世界でもな

次は、台風の影響で雨に降られた為、ゆっくり見ることができなくて残念でした。ピクチャレスクガーデンは軽井沢にある植物をいかに、宿根草や原生植物を中

今回の視察場所は、軽井沢千住博美術館・カラーリーフガーデン、絵本の森美術館・ピクチャレスクガーデン、軽井沢レイクガーデンでした。

千住博美術館のカラーリーフガーデンは、日本で最大規模の庭で、世界でもな

このカラーリーフはホスタやヒューケラ、銅葉や斑入りなどの樹木で構成されており、本当にたくさんの種類のカラーリーフが使わ

は、ガーデンデザイナーのポール・スミザーさんによってデザインされたナチュラルガーデンでした。

軽井沢レイクガーデンは、軽井沢の豊かな水を蓄えた湖を中心に、四季折々の草花の表情が楽しめるナチュラルガーデンでした。

そして、今回、日本植木協会の方々と一緒に視察させてもらったのですが、みなさんの知識の豊富さに圧倒されました。少しでも早くみなさんに追いつけるよう、これからもしっかり勉強していきたいと思

秋原委員長による司会のもと、部長長川口氏挨拶、山田氏紹介後、講習会を開始した。

商標の審査基準及び審査の運用について、商標制度の概要、商標制度の原則、商標上の商品と役務、商標権の構成、商標の種類、商標の使用、商標の役割、商

7月8日(火)14時より、東京都江東区の 清澄庭園 内大正記念館にて、一造会との意見交換会を実施した。約60名参加のもと、両会の活動紹介と意見交換を行った。

参加者は6グループに分かれ、植木を扱う業務での疑問、要望などについて、設計、施工サイドと生産サイドで意見を交換し、改善点や業界全体の業務向上につながる方策について検討した。

一造会会員からは、出荷

平成26年7月9日、10日に行われた日本列島植木植物園視察研修に今回、初めて参加させていただきました。

まずは、「軽井沢千住博美術館」のカラーリーフガーデンに行きました。私は、カラーリーフガーデンというのを今まで見た事がなかったのですが、どのようなイメージが湧きました。

美術館の周りをカラーリーフが囲むように設計されており、とてもたくさんの色鮮やかなカラーリーフで埋め尽くされていて見応えがありました。

心とした植栽がしてあり、ひとつひとつの植物がとても生き生きと

今回、カラーリーフガーデン、ピクチャレスクガーデン、軽井沢レイクガーデンに植栽されていた物は、すべて、それぞれの植物の特徴が生かされた庭作りだなと感じ、それらを生き生き見せる為には、ひとつひとつの植物の性質や色あいなどの知識が必要だと痛感しました。

そして、今回、日本植木協会の方々と一緒に視察させてもらったのですが、みなさんの知識の豊富さに圧倒されました。少しでも早くみなさんに追いつけるよう、これからもしっかり勉強していきたいと思

秋原委員長による司会のもと、部長長川口氏挨拶、山田氏紹介後、講習会を開始した。

商標の審査基準及び審査の運用について、商標制度の概要、商標制度の原則、商標上の商品と役務、商標権の構成、商標の種類、商標の使用、商標の役割、商

7月8日(火)14時より、東京都江東区の 清澄庭園 内大正記念館にて、一造会との意見交換会を実施した。約60名参加のもと、両会の活動紹介と意見交換を行った。

参加者は6グループに分かれ、植木を扱う業務での疑問、要望などについて、設計、施工サイドと生産サイドで意見を交換し、改善点や業界全体の業務向上につながる方策について検討した。

一造会会員からは、出荷

日本列島植木植物園 視察研修会 in 軽井沢

田宮 慎二
(南田宮園芸・鳥取県)

なかなか珍しい庭だと同じ、また、設計者の中野嘉明氏によるご案内も頂けるとい

今回は、台風の影響で雨に降られた為、ゆっくり見ることができなくて残念でした。ピクチャレスクガーデンは軽井沢にある植物をいかに、宿根草や原生植物を中

そして、今回、日本植木協会の方々と一緒に視察させてもらったのですが、みなさんの知識の豊富さに圧倒されました。少しでも早くみなさんに追いつけるよう、これからもしっかり勉強していきたいと思

秋原委員長による司会のもと、部長長川口氏挨拶、山田氏紹介後、講習会を開始した。

商標の審査基準及び審査の運用について、商標制度の概要、商標制度の原則、商標上の商品と役務、商標権の構成、商標の種類、商標の使用、商標の役割、商

7月8日(火)14時より、東京都江東区の 清澄庭園 内大正記念館にて、一造会との意見交換会を実施した。約60名参加のもと、両会の活動紹介と意見交換を行った。

参加者は6グループに分かれ、植木を扱う業務での疑問、要望などについて、設計、施工サイドと生産サイドで意見を交換し、改善点や業界全体の業務向上につながる方策について検討した。

一造会会員からは、出荷



絵本の森美術館ピクチャレスクガーデン

枝・葉クイズ

こたえ⑦

クスノキ科クスノキ属

クスノキ [楠、樟]

Chinamomum camphora

●常緑高木

15m程度 樹形は球形 (本州南関東以南、四国、九州、済州島で自生)

●特徴・特性

葉は長さ5~12cmの卵形または楕円形で、先は尖り、基部は広くさび形。縁は全縁で、わずかに波状になる。脈は3脈が目立つ。革質で表に光沢があり、緑色。裏は黄緑色または灰緑色。樹全体に虫除けの樟脳を含み、枝葉を切ると特有のにおいがする。日本の樹木では長寿、巨大樹として知られ、各地に大木がある。

類似種/ヤブニッケイ、ニッケイ、シロダモ、イヌガシ

◆見分け方

ヤブニッケイの葉は流線形で、3脈が目立つ。ニッケイの葉は長く、色は濃い。シロダモは属が異なり、葉が大きく、長い。イヌガシは属が異なり、葉が長く、3脈が目立つ。葉は蠟白色。

●利用法

公園樹、街路樹、樟脳、材。

◆その他

品種にカラーリーフの'レッド モンロー'があり、春の芽立ちが濃赤色で美しい。



クスノキ'レッド モンロー'の芽立ち

『鑑定図鑑 日本の樹木一葉で見分ける540種』

(三上常夫・川原田邦彦・吉澤信行著、日本植木協会編集協力、柏書房、2009)より抜粋
「新樹種ガイドブック改訂版」(日本植木協会編、建設物価調査会、2011)掲載画像を使用

庭園樹部会

政治勉強会

第2回「商標登録」を開催

庭園樹部会・伝統技術育成委員会

衆議院憲政記念館にて7月1日(火)13時30分より

21名の参加者を得て開催した。



軽井沢レイクガーデン

そして、今回、日本植木協会の方々と一緒に視察させてもらったのですが、みなさんの知識の豊富さに圧倒されました。少しでも早くみなさんに追いつけるよう、これからもしっかり勉強していきたいと思

秋原委員長による司会のもと、部長長川口氏挨拶、山田氏紹介後、講習会を開始した。

商標の審査基準及び審査の運用について、商標制度の概要、商標制度の原則、商標上の商品と役務、商標権の構成、商標の種類、商標の使用、商標の役割、商

7月8日(火)14時より、東京都江東区の 清澄庭園 内大正記念館にて、一造会との意見交換会を実施した。約60名参加のもと、両会の活動紹介と意見交換を行った。

参加者は6グループに分かれ、植木を扱う業務での疑問、要望などについて、設計、施工サイドと生産サイドで意見を交換し、改善点や業界全体の業務向上につながる方策について検討した。

一造会会員からは、出荷

青年部会

全国1級造園施工管理技士の会 (一造会)と意見交換会を開催

7月8日(火)14時より、東京都江東区の 清澄庭園 内大正記念館にて、一造会との意見交換会を実施した。約60名参加のもと、両会の活動紹介と意見交換を行った。

一造会会員からは、出荷

第65回

全国植樹祭にいがた2014

天皇・皇后両陛下のご臨席のもと新潟県で開催

今年で65回目となる「全国植樹祭」。6月1日、天皇、皇后両陛下をお迎えし、新潟県長岡市で開催された。

全国植樹祭は「国民の森林に対する愛情を培うこと」に、森林資源の確保、国土の保全、環境保全に寄与すること」を目的として、国土緑化運動の中心的な全国行事として昭和25年から毎年開催されている。本植樹祭の主催は（公社）国土緑化推進機構と新潟県。



天皇陛下によるお手植え



皇后陛下によるお手植え

00人が式典に参加した。記念式典では、天皇、皇后両陛下によるお手播きが行われた。お手播きの樹種で、「みどりの少年団」の

子どもたちの介添えのもと、お手播きされた。森のめぐみと緑の豊かさを次世代へ引き継ぐ想いを託し、（公社）国土緑化推進機構理事長の大会宣言、その後、泉田新潟県知事から次年度開催予定の石川県本知事へ、全国植樹祭のシンボル「木製の地球儀」のリリースレモニーなどを行い、式典は終了した。

午後からは会場を移しお手植えが行われ、天皇陛下は、フナ、イタヤカエデ、ホオノキを、皇后陛下は、ユキツバキ、ヤマボウシ、ウワミズクラをお手植えされた。

ウエキノミライ

本業界の歴史、変遷について鋭智を持ったキーパーソンの言葉から、未来を切り開く手がかりを探ります。

『植物の特性を知り提案を』

國 忠 征 美 氏
(グローバルグリーン クニタダ 岡山県)

私は植木業界に四十余年携わってきた。

昭和40年代に御世話になった企業では国内樹木、フウ、モミジバフウ、ユーカリ、アカシア等も扱っていた。生産に於いては治山用、緑化用樹木のコンテナ栽培も行っていた。その時の役員の一人在、岡山県、建設省、環境庁の委託で植生調査を行っており、その助手をすることにより、私は在来（自生）植物の分類、生態、生理等を学んだ。

昭和50年、海外の植物に関心を持ち、英国王立園芸協会（R.H.S.）の会員となり、海外の植物情報を得ることができた。

その後、生産に於いて毎年30～50種の海外よりの種子を導入し生産を行った。昭和57年、ある県より世界の植物園との種子交換によって入手した649種の種子を預かり、播種を行った。その内、生育した162種をその県へ返納した。生育した種子の原産地は、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ東岸、中国であった。日本での適応要因は、温度、降水量、土壌が大きく、これは地球の歴史と植物史に深い関係がある。

当方で生産をしている地域性植物についても、それぞれ樹種特性、組合せ、植栽地の土壌等を考慮した上で樹種選定を行う必要があり、事前に植栽現場周辺の植生調査を行うことを推奨している。

現在の植生アドバイザー（植生管理士）制度も、開設当時コンテナ部会役員であった（株）グリーンエルム・西野氏から相談を受け賛同し、現在に至っている。資格試験合格後も実際に植生調査を行っている人は少ない様に思われ、地域性植物適用委員会でスキルアップを行っている。

今後、植物の特性を十分理解した上での、設計者、施工者への提案、生産及び販売の強化も必要と考える。また、生産者は生産に於いて多くの知識や技術を有しており、貴重植物（絶滅危惧種）の保護、増殖を公的機関関係者と共に進めていく必要があるとも考える。



ウリハダカエデの芽生え



ホオノキ



コマユミ

コンテナ部会

屋上緑化用植物の耐乾性究明の技術開発事業 進捗状況

国土交通省・先導的都市環境形成促進事業（先進緑化技術開発助成事業）対象事業

コンテナ部会・耐乾性委員会

本事業は、コンテナ部会が主体となり、屋上緑化で使用可能な節水型植物について新たな植物種を提案・公表し、それによって屋上緑化の灌水にかかる経費等を節約し、利用者側、社会全体の利益となることを目的としている。

1. 目的

屋上緑化の普及とともに、屋上緑化への灌水が水の無駄使いであるとの指摘が一部の人から起こっている。これらは、耐乾性の強い植物（節水型屋上緑化用植物種）を使用し、灌水の

事業初年度の平成25年度、国土交通省・先導的都市環境形成促進事業のうちの先進緑化技術開発事業の対象事業として認定され、事業費補助のもと実施している。事業は3年間で完了する見通しで、平成26年度

間隔、量を従来より削減すること、節水が図れる。また、屋上緑化において緑化形態（南欧風、東洋風、ビオトープ、菜園等）の多様化が進行しており、多様な新しい植物種が使用される見通しで、平成26年度

日本植木協会として、節水型屋上緑化用植物種を選挙し公表し、屋上緑化において、さらに維持がしやすい多様な風景が創出されることを期待し、緑化技術開発を行う。

2. 事業内容

1) 節水型屋上緑化用植物の試験候補選定

屋上緑化では荷重等の関係で、薄層土壌での緑化が行われる事例が多い。無灌水での生存期間が、灌水量の削減の基本となるため、

緑化用植物（低木・草本が主）の実証実験を行い、無降雨耐性を究明する。現在、このような観点での植物の耐乾性を記載した書籍は少なく、種数も少ない。都市再生機構において

過去に土壌厚15cmのコンテナで生育試験を行い、夏季に30日以上無降雨後も生存し生育していた植物種を選定している。その試験に使用した植物種以外について実証試験を行い、新たな節水型屋上緑化用植物種を選定する。

2) 試験区の作成
学識者として相談した、東京農業大学の濱野教授の指摘を受け、ハウス内で雨水の掛らない状況で試験することとした。屋上に模した不透水面を作成し、防根層を敷設した上に樹脂製コンテナをならべ、排水層、土壌を積層し基盤とした。

植物に対する学会発表等での試験体は、7個体中上下2個体を除いた物の平均とすることが求められる

が、本試験では5個体の平均とすることとした。草本は1コンテナに2種×5株、10株、木本は1コンテナに1種5株とした。ハウス内に灌水開始日を3日ずつ延した植物種毎の11試験区（強制無灌水試験区）を、屋外に1試験区（放置型試験区）を作成し、植物種毎には計12試験区とした。草本類は無灌水5日後に灌水する区から始め、3日ずつ延し32日までとする。木本類は無灌水10日後に灌水する区から始め、3日ずつ延し37日までとする。その後の萌芽状況を観察するため、試験開始日から60日まででは灌水を行う。試験対象植物種は、学識者、協会会員、緑化技研の3者で協議して決定した。

3) 現状と今後の展開
日本植木協会会員企業の総意で進めており、現実の試験区作成、実施時の生育調査等に積極的な参加し出が多く寄せられている。節水型屋上緑化用植物種は、すでに市場があり生産体制が確立されている植物種が主体である。特に新たな植物種を導入する場合は少なく、既存種であり既存の体制で生産は可能である。節水型屋上緑化用植物種の普及を図るため、



成田地区の草本類植栽状況



成田地区のハウス全景



3試験地担当者を集めての試験区作成協議会



成田地区の試験区全景

生育調査票の例

試験区	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
0日																				
5日																				
10日																				
15日																				
20日																				
25日																				
30日																				
35日																				
40日																				
45日																				
50日																				
55日																				
60日																				

生育調査票の例

開発初年度であり、実用化には至っていないが、屋上緑化の普及には、既存建築物の緑化が重要であり、薄層で軽量の緑化形態が求められている。また、維持管理費の削減も求められている。耐乾性に優れた植物種を提示することで、屋上緑化の需要が増加することを期待している。

新樹種部会

平成26年度通常総会開催

東京メルパルクにて開催

新樹種部会は、平成26年度の通常総会を6月4日(水)13時から、東京メルパルク(東京都港区)にて開催した。参加社園数は42社園。主な議題は、平成25年度事業報告、平成26年度事業計画と役員選任であり、総会司会は丹下貴啓氏(愛媛県)が務めた。真鍋憲太郎副部会長より開会の辞の後、森川雅広部会長、植島清春副部会長から挨拶、故横井政人顧問感謝状と慰労金授与が行われた。そして議事の検討に入った。議事次第は次のとおり。

(1) 議長選出
司会者一任により原島春男氏(原島園)を指名した。

(2) 議事録署名人名の選出
議長指名で、横田豊氏(有横田園)、佐野公英氏(佐野園)の2氏を指名し、承認された。

部会だより

「新しい・・・」

新樹種部会 越川 芳弘
(有越川園・千葉県)

自分が初めて、新樹種部会の研修会に参加したのは10年前のヨーロッパ研修旅行でした。

当時、専門学校を卒業してこの職業にまだ入りたてだった間もないころでした。父親から、この話を聞き、私はただ海外に行けるという事で、参加を決めたのを覚えています。

当時の自分は、仕事で取り扱う樹木の種類すらまだ覚えられないような素人でした。仕事に対しての意識がまだ、持てなかった時期だったと思います。

この時の研修旅行では、フロリヤードをメインにオランダとイタリアの園場を視察したのを覚えています。

その後、私は鹿児島県の川崎緑化センターでお世話になりました。ここでは温暖な気候を活かして、苗木の生産・販売をしています。

(3) 議事の経過及び議決の結果
①第1号議案
「平成25年度事業、決算報告及び監査報告」
議長の指名により森川部会長、各委員長より事業報告を行った。次に事務局が決算報告を行い、続いて尾上信行監事が監査報告を行った。以上について、議長が会場に諮ったところ、第1号議案について賛成多数で承認された。

②第2号議案
「平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)」
議長の指名により森川部会長、各委員長より事業報告を行った。次に事務局が決算報告を行い、続いて尾上信行監事が監査報告を行った。以上について、議長が会場に諮ったところ、第1号議案について賛成多数で承認された。



森川部会長挨拶

③第3号議案
「役員選出委員5名の代表として小林公成氏より報告を行い、役員候補者名を報告した。」
以上について議長

会長、各委員長より事業計画(案)の発表を行った。次に事務局が収支予算(案)の発表を行った。以上について、議長が会場に諮ったところ、「品種登録に関する勉強会パートII」についてもう少し詳しく説明して賛成多数で承認された。

す。各園場では特徴を活かした色んな樹種の生産をしています。売店ではバラエティーに富んだ品物が店内を彩っています。

自分の住んでいる千葉県とは環境が違い、色々な所でいい経験をさせて頂きました。そこで印象に残っているのが、初めて知る苗木の種類が沢山あった事です。在来品から、新樹種まで色々な樹木をそこで知り、興味のある物で新しい物が出てくると楽しい気持ちになりました。それは、10年たった今でも変わっていません。

初めて会議に出席した時、とても緊張したのを覚えています。その緊張も会議や作業をするたびに無くなっていきました。全員の無知な自分でも、役割はあります。単純な作業ですが、やはりつまらない事があります。意地を張らず素直に聞くと、的確なアドバイスが返ってきます。その延長での余談話がとても、勉強になります。

新樹種部会

アメリカフウ「オーロラ」
Liquidambar styraciflua 'Aurora'

*北アメリカ中南部原産の落葉広葉樹。マンサク科。樹高5.0~10.0m位。
*葉は5から7裂の星型で、黄色の鮮やかな斑入や黄緑色の葉が混在するのが特徴。
*秋には、オレンジやワインカラーに紅葉し、人目を引く。
*生長が緩やかで、樹形はピラミッド型にコンパクトにまとまるので、比較的狭い場所でも利用できる。

協会カレンダー Trees & Shrubs 2014 9-10月掲載

平成26年度新樹種部会 役員構成				(太字は新任役員)
	都道府県	氏名	社名	
部会長	千葉県	森 雅太郎	(有)森川園芸	
副部会長	北海道	真鍋 憲太郎	真鍋庭園苗畑	
〃	東京都	真 野 久	(有)長寿園	
〃	愛媛県	丹 下 啓	(株)瀬戸内園芸センター	
幹事	岩手県	足 澤 匡	小岩井農牧園	
〃	栃木県	石 重 明	石川環境緑化(株)	
〃	茨城県	川原田 邦彦	確実園芸芸場	
〃	埼玉県	栗 原 隆治	(有)栗原緑地	
〃	〃	山 崎 隆雄	(株)ワイズプランツ	
〃	千葉県	越 川 芳弘	(有)越川園	
〃	東京都	新 倉 健治	(有)翠宏園	
〃	〃	上 野 祐一	新倉園	
〃	長野県	前 条 真	(有)丸八種苗園	
〃	愛知県	知 野 登	(有)前野陽農園	
〃	京都府	小 島 幹	(株)京都芳樹園緑販	
〃	兵庫県	金 岡 栄	(株)撰樹園	

	都道府県	氏名	社名
監事	神奈川県	尾 上 信行	尾上園
〃	埼玉県	小 林 隆行	(株)小林ナーセリー

が会場に諮ったところ賛成多数で承認された。

その後、新役員互選による新三役の報告があり、森川雅広氏を新部会長に、真鍋憲太郎氏、大野富久氏、丹下貴啓氏を副部会長に選出したことを報告した。

大野副部会長が閉会を宣し、14時15分を以て総会等諸行事を終了した。

「緑化通信」 広告募集

カラーになった緑化通信で御社製品・サービスをPRしませんか？

掲載回数	1回/年	3回/年	年間(7回)
小 (7×8cm)	20,000円 (10,000円)	25,000円 (12,500円)	50,000円 (25,000円)
中 (7×12cm)	30,000円 (15,000円)	75,000円 (37,500円)	150,000円 (75,000円)
大 (7×24cm)	60,000円 (30,000円)	150,000円 (75,000円)	300,000円 (150,000円)

※注 会員広告掲載料は半額！()内の金額となります。
お問合せ、お申し込みは事務局まで

「緑化通信」・新年(12/25)号用
表紙を飾る素敵な画像を募集中です！

樹木や緑に関連した自慢の画像をお送りください。
採用させて頂いた方には謝礼があります。ふるってご応募ください。

応募〆切11/15 事務局緑化通信担当まで

総会記念講演会

園芸研究家・吉谷桂子氏による、『21世紀のイングリッシュ・ガーデン最新事情』

当日は、140枚にも及ぶ貴重な写真を用意いただき、解説とともにイングリッシュ・ガーデン最新事情を講演いただいた。

部会顧問・安藤敏夫氏より、「キメラ斑の構造」について専門的な講話を戴いた。

翌日、「皇居東御苑」にて視察研修

案内役・平栗徳雄氏(元宮内庁職員、元植木協会事務局)のご案内のもと、44名参加で視察を行った。東御苑は、天皇皇后両陛下のお住まいとなっている皇居の一角にある皇居附属の庭園。皇居の由緒ある豊かな自然や歴史に思いをはせながら多様な樹木、草花を視察した。

4回連載 平成26年度通常総会 記念講演

「自然を守れば自然が守ってくれる (COP 11 標語より)」

講師 涌井史郎氏



第4回 (最終回) これからは都市間競争の時代 世界の潮流の中に皆さんの商売のヒントもあるはず

2020年に東京でオリンピックが開催されますが、残念ながら、東京でオリンピック開催する意義についての議論が、ほとんどなされていません。このオリンピックをきっかけにして、日本をどのようにつくりかえていくのかということ、我々はしっかりと考える必要はないかと思えます。

これからは、日本とアメリカ、日本と中国という関係ではなく、東京とニューヨーク、大阪と上海といった都市間競争の時代になるのは間違いありません。

かつてのヨーロッパは、城壁の内側には文明を象徴する都市が、外側に農地や森林があるという形で、都市と自然を明確に分離していました。産業革命以後は公衆衛生上の問題が発生したこともあり、この城壁を壊して環状の緑地帯をつくり、その外側に緑あふれる新市街地をつくりてきました。

一方で日本は、例えば江戸は当時から100万人の人口を擁し、とりわけ町人地ではあたりの住民が800人という人口密度の高い都市でしたが、コレラやペストなどの伝染病で市民の何割かが犠牲になるようなことは

一度もありませんでした。なぜなら、当時の江戸は非常に緑が豊かで、見事に自然と共生する生態環境都市、循環型の都市を実現していたからです。

しかし残念なことに、世界に冠たる緑を擁していた日本の都市の現状は、惨憺たるものです。都心5区(千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区)とニューヨークのマンハッタンはほぼ同じ面積ですが、都心5区の緑地を全部足してもセントラルパークには及びません。また東京23区とウィーンはほぼ同じ面積ですが、東京の公園面積はウィーンの3分の1程度しかないのです。そして、自然面が人工面に置き換えられ、緑が犠牲にされてきたことで、ヒートアイランド現象が起き、日本の大都市はこの100年間で平均気温が2〜3℃上昇しています。冒頭でも申し上げた通り、我々人類がともに暮らせる気候は産業革命以前+2℃と言われていますから、日本の都市はすでに限界を超えているのです。

これまで都市は、緑をかき分けて膨張していきま

世界の潮流と同じように、コンパクトシティ化を目指していることの現れと言えるでしょう。

これからの都市の姿は、社会資本整備に自然資本の配慮、そして国際性を重視した経済活動の3つの要素で決まります。それを歴史や文化、あるいは祝祭といったものを通じてコミュニティを充実させることで、災害に強くレジリエンス性が高く、都市間競争力のある、そして環境的に持続的将来に貢献できる都市となるわけです。そんな潮流のなか、世界各地の都市の主役が緑に置き換わ

りつつあります。環境が良くなることで不動産の価値も高まるという考え方が浸透しつつあるからです。それも、ただ単に緑を増やすだけではなく、生物多様性に貢献できるということまで質を高めようとしています。

ここまでお話ししてきたように、都市でも地方でも、緑を中心とした再生が始まろうとしています。緑の需要が高まるのは間違いないです。緑に関わる皆さんは、ここ10〜20年の低空飛行の幻影に悩まされ、未来を見据えて商売の基盤を築くことを忘れていたのでは

都市は再び自然と呼吸しコミュニティを重視する方向に！
→ 交通網の拡大による都市の成長から、機能複合・集約的な都市構造に長ずるに依る持続的未來を！

公共交通を軸とした歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

1996年には、都心の再生、スプロール化した郊外の真のコミュニティへの再編、自然環境の保全、歩行者と公共交通に配慮したコミュニティ、アクセスしやすい公共空間とコミュニティ施設、多様な近隣地区、広範な市民参加などをうたった「ニューアーバンイズム憲章(Charter of the New Urbanism)」を採用。

我々は目の利を求め、都市の今を選択するのか？ 未来を生きる人々を念頭に、持続性を失わぬ新しい価値創造の場としての地域を希求するのか？

グレー・インフラ Or グリーン・インフラ Or グレー&グリーンインフラのベストミックス

の選択を、新たなライフスタイルを確立しつつ、未来から奪うのではなく、未来への資産として確実に残す必要性が！

うえき・よろず相談

【質問】
「樹に寿命はありますか？」

【回答】
「ソメイヨシノの寿命は60年」、戦後60年を迎えた10年ほど前にマスコミで話題になった。学生時代にもそのように教わったことがある。このところ、街路樹や公園木などが倒れて人々に危害を与えたという報道が相次いだ。倒れたことで寿命というのか、あらためて樹の寿命を考えてみる。

質問の答えには、寿命があるかないか、との相反する二つがある。

(1) 寿命があるということについて

一般に生物の寿命は、生命活動を維持できない状態になったときとされる。この点からみると、樹木に寿命があるという場合、主に次のことが単独あるいは複合して起こり、一つの個体の寿命を迎える。

①根元が腐朽菌などにより腐って倒れる。(写真-1)

②ナラタケ類などの形成層を壊す菌類が寄生して枯れる。(写真-2)



写真-1 根が腐り、台風で倒れたケヤキ・副都心街路

③乾燥や日照不足で、生命活動を維持できない状態になる。

④害虫やセンチュウなどの害を受け、生理傷害を起こして枯れる。

⑤塩化カルシウムや除草剤などにより生理傷害を起こして枯れる。

⑥大木化して葉による生産が幹や枝の維持の必要量に不足して衰退する。

いずれも街路樹や公園樹などをみているとしばしば目にする。

(2) 寿命がないということについて
植物の細胞には、動物の細胞と違う点



写真-2 ナラタケモドキで枯れたサクラ類

ソメイヨシノも、幹が倒れたり枯れたりしても、萌芽枝があれば次の個体に命をつなぐことができ、それを繰り返すことができる。(写真-3)

回答協力：(一社)日本樹木医会理事 小林明氏

うえき・よろず相談では、質問・疑問を募集中！

日頃不思議に思っていること、困っていること、聞いてみたいことなどが解決できる好機会です。ご自由にお寄せ下さい。

下記の質問へのご回答を広く募集中です！ご回答者には寸志を差し上げております。

10月号用質問 →「ワダスメモリーとヒメタイサンボクの移植適期はいつですか？」
回答〆切 9月16日

※植木協会ホームページ・会員限定情報・掲示板でご投稿いただくか、事務局 緑化通信担当 (kawamura@ueki.or.jp) までお寄せください。



写真-3 生命をつなぐヒコバエ・ソメイヨシノ

九州ブロック 夏季研修会

『掘り取り・剪定技術
講習会は大盛会(正解)！』

九州ブロック 井上 致伸
(井上青華園・熊本県)

6月7日(土)～8日(日)に福岡県小郡市(旬山崎瑞松園さん)園場にて開催された九州夏季研修会。ちょうど数日前に梅雨入りしましたが、二村プロック長の行いが良かったらしく、よい研修日和となりました。

今回の研修テーマは、「掘り取り・荷作り・剪定講習会」および資材・機材の展示会でした。これまでの机上の論議ではなく、現場での実地研修。加えて、植木協会会員および青年部のみなから、一般生産者、造園業者やその従業員、さらに西日本短期大学や福岡県立筑水高等学校のような将来緑に携わる勉強をされている学校にも参加を広く呼びかけ「原点」に戻り、会員の持っている掘り取り・剪定の技術や経験を生産者や若い従業員に伝えて行く」という趣旨のもと、2日間で開催された。

0名の参加を頂き、大いに賑わいました。

開会式は、二村プロック長、水城会長、挨拶の後に講師紹介があり、地元でも秀でた技術をお持ちの方々、中野一美氏(中野園芸・福岡県)、栗木聡氏(栗木植物園・福岡県)、坂井宏氏(坂井緑進園・福岡県)、湯之上睦氏(旬湯之上園芸・鹿児島県)、新地耕一氏(旬新地グリーン・鹿児島県)、岩重氏(三和物産(株)・鹿児島県)、黒木洋昭氏(旬湯之上園芸・鹿児島県)、内田義一氏(内田養樹園・鹿児島県)、また特別講師として、遠路東京より、植島植木(株)の植島春樹氏・和樹氏兄弟にお越しいただきました。

はじめは、植島兄弟による落葉高木(ヤマボウシ・イロハモミジ)の剪定実技。共に20歳台と若い二人。はじめは聞き手・話し

手共に硬さがありました。が、徐々に熱が入り、しどろもどろになり、ついには鉄を取り出し、一緒に剪定が始まりました。また、常緑中木の講義でも、それぞれの三角巾の縄のまわり方が披露され、常緑高木も掘り取りと剪定を各講師に実演してもらいました。

協賛会員の「生分解性サポート」等の資材や「剪定枝粉砕機」等の機械・機材の展示も行われ、皆さん興味深くお話を聞いておられました。また、二村プロック長によるロープワーク実習、講師陣を壇上へ迎え

ての質疑応答など、盛り沢山の内容となり、盛況のうちに研修を終えました。夜の懇親会では80名からの参加があり大いに情報交換を行い、親睦を深めることができました。

2日目は、前日に似た研修をしました。が、終わりに会員からエンジン付きスコップや他の資材に対しての要望・検討もありました。

今回の研修会では、剪定や掘り取りなどの作業感覚や考え方をこれだけの人数(全員プロ)が議論し、質問し合える稀な機会であり、今さらながら新鮮で、有意義で、何より楽しい場でした。

自社の生産技術を披露するとなると難しいと思いましたが、在庫不足、労働人口の減少の中、今回のように作業効率を共に高め合うという機会は、非常に重要になってくると思います。

今後このような現場研修を通して、生産現場の効率化・安全性の向上などにつなげていければと思います。尚、You Tubeの「The Ikyoukai」で検索頂けると研修会風景を動画でご覧いただけます。

7月12日(土)、宮崎県で初めての緑育出前授業を開催しました。会場は、宮崎県児湯郡西米良村「西米良村立村小中学校」で、休日に親子で参加できる形と

しました。当初は四年生以上を対象としていましたが、事前に学校にお願いして出欠を取ってもらったところ、低学年の子も参加したいとの事だったので、どの様に授業を進めるかを再検討しました。低学年には内容が難しく理解できないのではないか、など意見が出たので、授業内容を変更して低学年の子にも分かるように改善しました。



落葉高木の剪定実技



常緑高木の掘り取りと根巻実技



当日の参加人数は、小学生と保護者28名。前半は体育館で映像をもとに緑の授業。その後、校庭内に植えられている樹木を当てる「この木なんの木クイズ(12種類)」をラリー形式で行いました。保護者の方



らも、それぞれの樹木はどの様に見分けるのか、庭に植えるならどんな樹種がよいのか、公園・学校ならどのような樹種が良いのか、の苗木を配布したところ、子供たちは嬉しそうに持ち帰っていました。

授業終了時に、参加記念の苗木を配布したところ、子供たちは嬉しそうに持ち帰っていました。

7月19日、20日、大分市の大分駅南側に位置する緑地公園「大分この道の広場」にて、「大分この道の誕生祭2014」と題してオープン一周年を記念するイベントが大分市主催で行われました。その中のイベントの一つとして『この木何の木クイズ』を、NPO法人「アイラブグリーン」大分(代表 二村沢行九州ブロック長)と共催で青年部会・大分県支部が行いました。

当日は、来場した一般参加者(特に子供連れ)を対象とし、園内に植栽されている樹木6種類(タブ、シラカシ、ユリノキ、イロハモミジ、ソメイヨシノ)にまつわるクイズに答えてもらいました。当初は、申込み順に園内を探索してもらい、各樹木に担当者を配置し対応する予定でしたが、0名の参加、うち半分は小学校以下の子供だったと思えます。子供たち以上にその保護者が非常に興味を持っていたのが印象的でした。

緑の啓蒙活動としては、保護者も巻き込み、多くの方々に公園の樹木に興味を持っていただくことが重要であると思えました。

7月22日付 本協会関係分

人事異動

林野庁 7月22日付 本協会関係分

代表者・メールアドレス変更

新樹種部会・退会

シマトネリコ 30,000 株
タマリユウ 60,000 マット
直営農場で生産中

3.11 震災復興に向けて
シャリンバイ(15vp)
30,000 ポット

タマリユウ・シマトネリコ生産販売
タマリユウジャパン
タマリユウ定期便で
いつでも・どこへでもお届けします。

●ご注文はホームページ、
電話・FAX・メールでも承ります。

〒893-0013
鹿児島県鹿屋市礼元2丁目 3727-2
TEL: 0994-44-6993
FAX: 0994-44-6996
URL: http://www.tamaryu.jp/
E-mail: net-shop@tamaryu.jp